

ここに注目！ **商店街の空き店舗と地域のお母さんの力を活用し、交流の場を提供、地域資源の再開発にも挑戦。**



ポイント

地域資源である“映画”を核とした商店街の魅力づくりとして、映画の主人公「大魔神」の全身像を商店街内に設置するとともに、大魔神にちなんだ商品・サービスを提供している。

また、地域のお母さんの力を商店街活性化に活かす仕掛けづくりとして、地元のNPO団体と連携し、空き店舗を活用したコミュニティスペース「キネマ・キッチン」を開設し、親しみを込めた「おもてなし」を行い、親子から高齢者まで、幅広い交流の場を提供するなど、地域団体、住民有志と深く連携した地域の「ひと力」を活かした他にはない商店街づくりに尽力している。

[商店街概要及び取組の背景]

「キネマのまち」の商店街

太秦広隆寺から帷子ノ辻に至る全長約600mからなる近隣型の商店街。戦後、夜店が並ぶ「夜市」から始まり、昭和46年に振興組合が組織されている。

商店街が立地する太秦地区は、昭和初期から複数の撮影所が立ち並ぶなどキネマの都であり、映画にまつわるさまざまなエピソードが息づいている。

一方、大映通り商店街は、来街者の減少や空き店舗増加によって失われた活気を取り戻すため、地域資源“映画”をテーマとした取組を行ってきたが、商店街活性化の力としては活かしきれていなかった。

[取組の概要・効果]

Plan・Do

にぎわいを取り戻すために

地域のお母さんの力を商店街の活性化に活かす仕掛けづくりとして、地元のNPO団体と連携し、空き店舗を活用した惣菜と弁当の販売及びカフェを運営するコミュニティスペース「キネマ・キッチン」を開設した。



5メートルの大魔神像を大映通りに設置

親子から高齢者まで気軽に入ってくつろげる交流の場を提供している。

また、映画を核とした商店街の魅力づくりとして、かつての大ヒット映画の主人公「大魔神」の全身像を商店街内に設置するとともに、大魔神にちなんだ商品・サービスの開発を企画している。

さらに、キネマ・キッチン内をミニ映画博物館仕様にレイアウトするなど、映画を語り楽しめる場となっており、映画を介した人のつながりが商店街や地域の活性化につながっている。

[効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

地域に愛される商店街として

「キネマ・キッチン」は、開店から2週間で、約700名の利用者があるなど来街者からの支持を得ており、コミュニケーションの場として商店街の核となっている。

また、インパクトのある大魔神像を設置したことにより、遠方から映画ファンが訪れ、映画にまつわるエピソードなどを通じて、利用者間の交流が自然に行われている。「キネマ・キッチン」と映画の相乗効果により、来街者数が、昨年度に比べ2.5%増加しており、特に若い世代の親子連れや、若者グループなど、今までになかった新たな客層の来街が目立っている。

[実施体制]

立場・分野を超えた取り組み

30代・40代の現役育児中の母親が中心メンバーである「NPO法人子育ては親育て・みのりのもり劇場」は、商店街内に事務所を置き、親子向けのイベント開催や「キネマ・キッチン」の運営など、商店街と連携して数々の活動を実施している。

また、商店街若手店主と地域の有志が中心となって「チーム・キネマ」を結成し、商店街活性を目的として活動を行っている。「チーム・キネマ」はこれまでの活動で培われてきた商店街と大学・学生・地域団体との関わりが「チーム」として組織化されたものであり、地域と商店街を結びつける役割を担っている。

「チーム・キネマ」は、商店街の各種イベントに新しい発想で新企画を実施するなど、商店街活性の一翼を担う重要な位置づけとなっている。

基本データ

所在地：京都府京都市右京区太秦堀ケ内町

会員数：59名

店舗数：76店舗

関連URL：<http://kinemastreet.com/>



コミュニティスペース「キネマ・キッチン」



キーパーソン

大映通り商店街振興組合
理事長 小林 久雄

困難を乗り越えて

かつては「日本のハリウッド」とまで言われた大映通り商店街も、時代とともにすっかり様変わりしました。私はこの商店街で30年以上商売をしています。その繁栄も、さびれていくさまも、風景と売上で体感してきました。「なんとかしたい」その一心で、数々の活性の取組を続けてきましたが、目に見える効果はなかなかあがらず、「これも、逆いようのない時代の流れなのか」という諦観と、それに抵抗したい気持ちと、日々揺れ動かなかで理事長を務めてまいりました。資金面や組合内の「想いの共有」の不足もあり、起爆剤となるアイデアや、主体となって取り組む人材の確保も難しい現状がありました。

しかし、組合に加盟している地域活性NPO法人や、近隣大学のゼミなどが取組に参画して下さり、組合員でも積極的な店主の情熱が活かされるような活性事業

を展開することが可能となりました。高さ5メートルの巨大大魔神像誘致や映画をテーマとしたコミュニティ・カフェ開設、道路のカラー再舗装など、思い切った補助金事業を実施することができ、商店街に新しく強い風を吹き込むことができましたと思います。

地域の人で賑わう商店街をめざして

ランドマークや施設が、ただ「そこにあるだけのモノ」になっている事例もよく聞きます。大魔神像やコミュニティ施設の設置を一時の話題づくりで終わらせず、恒常的な賑わいにつなげていくためには、継続して、「映画」を核とした取組を続けていく必要があります。しかし、新しい風—変化—は、無条件に歓迎されるとは限りません。急ぎ足で事業を進めていく中で、商店街全体の「想いの共有」はなかなか難しいものがあります。昔からこの商店街を愛し守ってきた、歴史ある店舗さんなど、そこにもやはり大切にしなければならない「想い」があります。「賑わいを取り戻したい」という気持ちは共通しているのですから、その取組への理解を求める努力を続け、地域に開かれ、地域に愛される商店街として、想いをひとつにして活気ある商店街をつつていきたいと思っています。